

◆ 2019年度活動報告シート ◆

団体名：熊谷市立久下小学校エコクラブ委員会

22A-33

代表者：校長 吉野富夫

URL : <http://www.kumagaya-kuge-e.ed.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

地域の元荒川にだけ生息する絶滅危惧種のムサシトミヨの繁殖活動を通して、自然に興味関心をもち、自然環境の大切さを実感し、将来にわたって環境問題解決に向けて意識を高くもち、自分のできることを確実に取り組める児童の育成を図る。そのため、毎日の繁殖池の水温測定、ごみの除去、年一度の繁殖調査、元荒川へのムサシトミヨ放流を実施している。さらに、全校児童へのムサシトミヨの紹介と自然保護の大切さを伝える委員会集会を実施している。また、熊谷市ムサシトミヨを守る会主催の繁殖報告会にて活動報告を行っている。

その中で、ムサシトミヨ観察用の水槽が老朽化し、水温管理が非常に大切なムサシトミヨの飼育に影響が心配されるクーラーやフィルターの劣化があるため、水槽装置を新設した。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

令和元年11月27日(水)ムサシトミヨ繁殖調査（池の水を抜きムサシトミヨを保護し、繁殖数を確認し、水草も新しくして、雄雌10匹ずつ残し残りを元荒川に放流する）繁殖数214匹



参加者：エコクラブ委員会12名、3年生48名

調査協力者：熊谷市環境政策課、さいたま水族館、ムサシトミヨ保護センター、熊谷市ムサシトミヨを守る会、ムサシトミヨ研究者金澤氏
増えた14匹を新しい水槽へ移した



令和元年12月16日(月)ムサシトミヨ集会で委員会の活動報告とトミヨクイズを実施

令和2年2月16日(日)ムサシトミヨ繁殖報告会にて本校の活動報告を熊谷市民へ発表



3. 活動の成果

ムサシトミヨの繁殖活動の継続により、自然環境の保全・浄化活動の大切さを身近に考える機会となっている。水槽を新しくしたため、児童が観察しやすくなりムサシトミヨに対する愛着が深まった。担当委員会児童は、活動報告を通して他校や他団体との交流により、自分たちの取組の意義を再確認できた。

4. 今後に残された課題

繁殖池での保護活動を継続するとともに、水槽での巣作りができるようにより一層の環境を整えていくことが課題である。